

真田是 著作集全5巻

5月末まで 予約特別販売

社会福祉・社会保障の発展へむけて

真田理論を8つのテーマ、全5巻にまとめました。常に、実践と研究を結び付け、時代を鋭く捉え、社会福祉分野だけでなく、部落問題論まで幅広く展開してきた真田研究を集大成しました。



真田 是(さなだ なおし)氏
略歴
1928年 12月 2日
静岡県伊東市に生まれる
1954年 3月
東京大学卒業 (文学部社会学科)
以後、以下の大学等で
教員等を歴任する。
大阪府立社会事業短期大学
愛知県立女子大学
立命館大学
立命館副総長
立命館大学副学長
総合社会福祉研究所理事長
日本福祉大学
山口県立大学大学院
2005年 9月28日
京都市福王子の自宅にて
逝去 (享年76歳)



6月刊行予定

5巻セット 箱入り 予約特別販売価格

普及価格 **13,000**円(税・送料別)

予約販売価格 2012年5月末まで申し込み・入金

10,000円(税・送料込み)

特別価格 **12,000**円(税・送料別) 2013年3月末まで

※予約販売終了後は、下表のように送料が必要となります。請求書は送料を含めてお送りします。送料には、包装箱代が含まれています。(円)

セット数	北海道	北東北 青秋 岩山	北東北 森田 手形	南東北 宮城 福島	北関東 茨城 栃木 群馬	南関東 東京 神奈川 埼玉	信越 新潟 長野 山梨	北陸 富山 石川 福井	中部 静岡 愛知 岐阜 三重	近畿 滋賀 京都 兵庫	畿東 大阪 奈良 和歌山	中国 岡山 広島 鳥取 島根	中国 山口	四国 香川 徳島 愛媛 高知	北九州 福岡 佐賀 大分	中九州 長崎 熊本	南九州 宮崎 鹿児島	沖縄
1	1,790	1,100	1,100	1,000	890	890	840	840	790	840	890	890	890	1,100	1,100	1,940		
2	1,930	1,250	1,250	1,140	1,040	1,040	990	990	930	990	1,040	1,040	1,040	1,250	1,250	2,090		
3	2,080	1,400	1,400	1,290	1,190	1,190	1,130	1,130	1,080	1,130	1,190	1,190	1,190	1,400	1,400	2,240		
4	3,750	2,380	2,380	2,170	1,960	1,960	1,860	1,860	1,750	1,860	1,960	1,960	1,960	2,380	2,380	4,060		
5	3,900	2,530	2,530	2,320	2,110	2,110	2,000	2,000	1,900	2,000	2,110	2,110	2,110	2,530	2,530	4,210		
6	4,040	2,680	2,680	2,470	2,260	2,260	2,150	2,150	2,050	2,150	2,260	2,260	2,260	2,680	2,680	4,360		
7	4,200	2,820	2,820	2,610	2,400	2,400	2,300	2,300	2,190	2,300	2,400	2,400	2,400	2,820	2,820	4,500		

第1巻 社会問題論

1 基本的視点

- (1) 現代社会と社会問題(『現代社会問題の理論』1978)
- (2) 社会問題の本質(『現代社会学と社会問題』1965)
- (3) アメリカの社会問題理論—ブルジョア社会学批判 概要(『現代社会学と社会問題』1965)
- (4) 社会問題の構造—主観的条件と客観的条件(『ソシオロジ』34号 1964)

2 社会問題の「基礎理論」

- (1) 経済と社会問題(『現代社会問題の理論』1978)
- (2) 社会関係と社会問題(『現代社会問題の理論』1978)
- (3) 国家と社会問題(『現代社会問題の理論』1978)
- (4) 文化と社会問題(『現代社会問題の理論』1978)
- (5) 社会体制と社会問題(『現代社会問題の理論』1978)

3 社会問題の展開

- (1) 社会問題展開の論理(『社会問題と資本主義社会』1972)

4 戦後日本の社会問題の展開

- (1) 社会問題の現局面(『社会問題の変容』1992)
- (2) 何がどう変わったか—伝統的社会問題のゆえ 1 労働問題(『社会問題の変容』1992)
- (3) 何がどう変わったか—伝統的社会問題のゆえ 2 貧困問題(『社会問題の変容』1992)
- (4) 新しい波 1 生活問題(『社会問題の変容』1992)
- (5) 新しい波 2 社会病理(『社会問題の変容』1992)

5 社会問題の克服

- (1) 社会問題の克服の方向(『現代日本の社会問題』1973)
- (2) 社会問題の克服をめざして(『人間性の危機と再生』1988)

第2巻 社会保障論

1 基本的視点

- (1) 社会政策論(『社会保障 政治と経済』1966)
- (2) 社会保障と民主主義(『現代民主主義と社会保障』1971)
- (3) 社会保障における「社会」と「生活」(『社会保障とは何か』1981)

2 社会保障論の展開

- (1) 社会保障論の体系(『社会学講座』15社会福祉論 1974)
- (2) 社会保障と社会改革
 - ① 社会保障とは何か(『社会保障と社会改革』2005)
 - ② 社会の動きと社会保障の動き(『社会保障と社会改革』2005)
 - ③ 社会保障の生成(『社会保障と社会改革』2005)
 - ④ 日本の社会保障(『社会保障と社会改革』2005)
 - ⑤ 社会保障をめぐる論点から(『社会保障と社会改革』2005)
 - ⑥ 社会保障と日本改革(『社会保障と社会改革』2005)

3 方向と課題

- (1) 社会保障と社会発展・人間発達(『社会保障と社会改革』2005)

第3巻 社会福祉論

1 基本的視点

- (1) 社会福祉理論の性格と枠組(『社会福祉の理論と教育』Ⅲ 1973)
- (2) 社会福祉と社会体制(『新版社会福祉論』1975)
- (3) 社会福祉理論研究の課題(『社会福祉研究』9号 1971)
- (4) 社会福祉の対象(『新版社会福祉論』1975)
- (5) 社会問題・生活問題・社会福祉(『現代の福祉』1977)

2 社会福祉論の展開

- (1) 現代社会と社会福祉(『社会福祉と主体形成』1991)
- (2) 現代の社会福祉理論—構造と論点
 - ① はしがき(『現代の社会福祉理論—構造と論点』1994)
 - ② 社会福祉の戦後過程をどう読むか(『現代の社会福祉理論—構造と論点』1994)
 - ③ 社会福祉理論の分岐点(『現代の社会福祉理論—構造と論点』1994)
 - ④ 「資本主義社会と社会福祉」の論点(『現代の社会福祉理論—構造と論点』1994)
 - ⑤ 社会福祉における「政策論」(『現代の社会福祉理論—構造と論点』1994年)
 - ⑥ 社会福祉労働論(『現代の社会福祉理論—構造と論点』1994)
 - ⑦ 社会福祉と主体形成(『現代の社会福祉理論—構造と論点』1994)

3 課題

- (1) 社会福祉理論研究の課題(『戦後日本社会福祉論争』1979)
- (2) 戦後社会福祉の政策展開と展望—政策批判の視点(『戦後社会福祉の総括と21世紀への展望』Ⅲ制度と政策 2002)
- (3) 社会福祉原理・思想をめぐる論点と課題(『2005年日本の福祉 論点と課題』2005)
- (4) 社会福祉の対象と政策—運動—労働—事業(『講座21世紀の社会福祉』1国民生活と社会福祉政策2002)

第4巻 I 地域福祉と社会福祉協議会

- (1) 伊勢湾台風と地域組織化の問題(『社会事業』第43巻1号 1960)
- (2) 住民主体の原則(『月刊福祉』46巻10号 1963年)
- (3) 農山村の社会福祉活動(『月刊福祉』50巻7号 1967)
- (4) 地域福祉の当面の課題(『地域福祉の諸問題』1973)
- (5) 地域的不均衡発展と階級構成の変化(『新マルクス経済学講座』6戦後日本資本主義の階級構成1976)
- (6) 「福祉国家」の変革と地域(『講座今日の日本資本主義』9日本資本主義と国民生活 1982)
- (7) 地域福祉の基礎視角(『産業社会学集』33号 1983)
- (8) 地域の福祉力について(『地域福祉の原動力—住民主体論争の三〇年』1992)
- (9) 社会福祉協議会の課題の移り変わり(『地域福祉と社会福祉協議会』1997)
- (10) 社会福祉協議会の役割(『地域福祉と社会福祉協議会』1997)
- (11) 社会福祉協議会の当面する課題(『地域福祉と社会福祉協議会』1997)
- (12) 地域福祉とはなにか(『講座21世紀の社会福祉』5現代地域福祉の課題と展望 2002)

II 民間社会福祉論

- (1) 今日の社会福祉をめぐる情勢と民間社会福祉(『民間社会福祉論』1996)
- (2) 社会福祉における国家責任と民間社会福祉(『民間社会福祉論』1996)
- (3) 民間社会福祉の存在理由と存在意義(『民間社会福祉論』1996)
- (4) 現代日本の民間社会福祉(『民間社会福祉論』1996)
- (5) 社会福祉事業体論の論点—非営利・協同の角度から(『講座21世紀の社会福祉』4転換期の社会福祉事業と経営 2002)

第5巻 I 福祉労働論

- (1) 福祉労働と福祉運動(『現代社会福祉論』1973)
- (2) 福祉労働の意味と現状(『ジュリスト』572号 1974)
- (3) 社会福祉の現状と社会福祉労働論、社会福祉技術論(『社会福祉労働』1975)
- (4) 社会福祉における労働と技術の発展のために(『社会福祉労働』1975)
- (5) 福祉労働と専門性(『社会福祉研究』30号 1982)
- (6) いま「社会福祉労働」を問う意味(『講座21世紀の社会福祉』3社会福祉労働の専門性と現実 2002)
- (7) いま情勢が社会福祉の労働と経営に求めているもの(『民間社会福祉事業と公的責任—社会福祉法人の展望をさぐる』福祉労働・福祉経営共同研究会 2003)
- (8) 社会福祉の仕事(『新版 社会福祉の今日と明日』2003)

II 社会福祉運動論

- (1) 労働・技術・運動(『社会福祉労働』1975)
- (2) 現代生活と主体形成(『講座現代日本社会の構造変化』5現代日本の生活構造1986)
- (3) 社会福祉運動とはなにか(『講座21世紀の社会福祉』2社会福祉運動とは何か 2002)
- (4) 社会福祉運動の戦後過程(『講座21世紀の社会福祉』2社会福祉運動とは何か 2002)
- (5) 「社会福祉基礎構造改革」下の社会福祉運動の課題(『講座21世紀の社会福祉』2社会福祉運動とは何か 2002)

III 部落問題論

- (1) 何がどう変わったか—部落問題(『社会問題の変容』1992)
- (2) 日本独占資本主義と部落問題(『戦後部落解放運動の研究』1979)
- (3) 部落問題研究と非合理主義(『部落問題研究』104号 1990)
- (4) 同和行政終結の意義(『部落問題の解決と行政・住民』1995)
- (5) 完了宣言の意義と役割(『部落問題の解決と行政・住民』1995)
- (6) 歴史的後進性とその克服(『部落問題の解決と行政・住民』1995)
- (7) 部落解放運動と地域住民運動(『部落問題の解決と行政・住民』1995)

真田是著作集 全5巻

購入申し込み

年 月 日

領収書が必要な場合は、丸印をつけて下さい。 **必要**

() セット 申し込みます

お名前 _____ 電話番号 () _____

住所(お届け先) 〒 _____

※申し込みいただき次第、請求書をお届けします。入金確認後、発刊でき次第お届けします。

【送付先】〒543-0055 大阪市天王寺区悲田院町 8-12 福祉のひろば fax 06-6779-4895 tel 06-6779-4894

Eメール: mail@sosyaken.jp ※ホームページからも申し込みます。(www.sosyaken.jp)

だれもが安心の社会福祉・社会保障の実現へむけて

真田理論の魅力語る

推薦のことば



「公正」な社会を どう実現するか

財団法人自治体国際化協会
理事長

木村 陽子

(地方財政制度審議会委員、財務省制度審議会委員、
厚生労働省人口問題審議会専門委員等を歴任)
主な著書 「自分を守るための年金基礎知識」

真田是先生の著作集全5巻は、先生を敬愛する教え子達の恩師の業績をまとめようという熱意の元に編集・完成された。先生のご存命ならばさぞかしお喜びになられたことだろう。先生の教え子達は必ずしも学者ばかりではなく、労組幹部もおられる。先生のご研究は広くそうした活動に対して、理論的基礎を与えたものである。

それは、真田先生の50年に渡るご研究が、社会問題を社会の仕組みとの関係でどう理解し、どう対処すべきなのかを追求されたからであり、そこから社会運動や政策主体が位置づけられ、社会福祉や社会保障のあり方もその延長線上にあった。先生のお考えは柔軟であり、問題意識の根底には、「公正」な社会をどう実現するかがあった。

私は先生と同じような問題意識を持ち、同じような事柄等を対象としながら違う枠組みで研究をしてきたが、真田先生のご主張を私への問いかけとして全集を読ませていただいた。そのことによって、多くの新たな発見ができたことを感謝したい。また、第4巻におさめられた「伊勢湾台風の地域組織化の問題」(1960年)は2011年の東日本大震災の関係でも皆様に読んでいただきたい玉稿である。



講義中の真田先生
立命館大学産業社会学部長・
副総長を歴任された

若い方もぜひ購読を テーマごとに専門研究者が解題

真田是著作集全5巻の編集は、真田是先生を慕う多くのボランティア(研究者・教え子・院生など)で、行ってきました。現代にも生きる“真田理論”を、若手の研究者や社会福祉を支える現場の人たち、社会保障の運動を進める人たちに、是非とも読んでいただきたいと願っています。

そのために、特に若い方々も購入しやすいよう、思い切った普及価格にしました。真田先生の教え子のみならず、研究者の方々等々で編集作業を行い、流通を通さずに、自主出版で発刊することにしました。初版1000セットです。

真田是先生の研究初期の論文も掲載されています。今回の著作集では、より分かりやすく読んでいただこうと、各巻ごと、テーマごとに解題をそれぞれの専門の研究者が執筆し、真田理論の真髄を学ぶことができます。

鋭い時代認識と社会福祉研究の課題を常に発信し提起されてきた真田是先生の論文が、今般、著作集として蘇ります。社会福祉現場の実態、当事者の生活問題等々と社会福祉政策との乖離、実践と運動、そして政策とを生き生きと語りかける著作集です。

今日も有効な真田理論を 活用して次代へ



総合社会福祉研究所
理事長 石倉 康次

真田先生が亡くなられて7年がたち、先生の理論的営みが停止し、今日では社会福祉士国家試験問題に登場するなど、ひとつの古典的な性格をもつようになってきています。しかし、真田理論の骨格である社会問題、社会運動、政策主体の三つの主要モメントを基軸に据える「三元構造論」、政策による対象を「対象化された対象」と構成する論理、「福祉労働」を政策と対象の媒介として考えるなどの基本概念は、社会福祉の市場化が進み社会福祉とは何か、が改めて問われる今日においても、基本とされるべき有効なものであると考えております。

真田先生の著作集発刊によって、真田先生の研究過程や成果が次世代へ引き継がれ、社会福祉及び社会保障発展の一助として活用していただけるよう、願っております。

だれもが安心の 社会福祉・社会保障の実現へむけて

真田理論の魅力を語る

真田是
著作集を
推薦します

浜岡	政好	佛敎大学教授
細貝	大二郎	大阪福祉事業財団理事長
泉谷	哲雄	全国福祉保育労働組合副執行委員長
豊田	八郎	元社会福祉施設経営者同友会事務局長
廣末	利弥	社会福祉法人七野会理事長
青木	道忠	大阪発達支援センターぼぼろ所長
前田	治敏	大阪府関係職員労働組合書記次長
石川	康宏	神戸女学院大学教授
植田	章	佛敎大学教授
奥村	慶雄	大阪府保険医協会
垣内	国光	明星大学教授
加藤	蘭子	中部学院大学教授
加美	嘉史	佛敎大学准教授
唐鎌	直義	社会保障研究家
河合	克義	明治学院大学教授
岸本	由起子	京橋共同法律事務所弁護士
木戸	利秋	日本福祉大学教授
後	みつる	大阪民医連常任理事
鈴木	勉	佛敎大学教授
丹波	史紀	福島大学准教授
仲井	さやか	大阪保育運動連絡会事務局長
永岡	正己	日本福祉大学教授
鍋谷	州春	日本福祉大学客員教授
藤松	素子	佛敎大学教授
宮本	茂	自治労連社会福祉部会副部長

鋭い時代認識と社会福祉研究の課題を常に発信し提起されてきた真田是先生の論文が、今般、著作集として蘇ります。社会福祉現場の実態、当事者の生活問題等々と社会福祉政策との乖離、実践と運動、そして政策とを生き生きと語りかける著作集です。



講義中の真田先生
立命館大学産業社会学部長・
副総長を歴任された

今日も有効な真田理論を 活用して次代へ



総合社会福祉研究所
理事長 石倉 康次

真田先生が亡くなられて7年がたち、先生の理論的営みが停止し、今日では社会福祉士国家試験問題に登場するなど、ひとつの古典的な性格をもつようになってきています。しかし、真田理論の骨格である社会問題、社会運動、政策主体の三つの主要モメントを基軸に据える「三元構造論」、政策による対象を「対象化された対象」と構成する論理、「福祉労働」を政策と対象の媒介として考えるなどの基本概念は、社会福祉の市場化が進み社会福祉とは何かが変わって問われる今日においても、基本とされるべき有効なものであると考えております。

真田先生の著作集発刊によって、真田先生の研究過程や成果が次世代へ引き継がれ、社会福祉及び社会保障発展の一助として活用していただけるよう、願っております。

真田是先生の 「鋭い時代認識」と「社会福祉研究」への提起

第9回社会福祉研究交流集会合宿研究会での真田是先生の基調報告の一部抜粋 2005年1月

「いま」は新しい段階か。第一点は、今や国家の名で行われるものが相次いで、次から次へと出されてくるという状況になっていくのではないかと。それは、日本国憲法によれば今の日本の主権者は国民なわけでありまして、国民主権と言われている憲法体制であります。今進められつつあるのは、この国民とは別建ての国家というものをどうやって国民の間に浸透させるかという試みが、精力を集中していろんな面から行われてきているのではないかと思います。国家は主権者国民とは相対的に独立した公共性のシンボルにされたり、普遍性のシンボルにされたり、国民が持つべきアイデンティティにされたり、これらはそれぞれあっていいことですが、主権者国民と別建てで行われているところにファシズムへの大変な深いかかわりが感じ取られるのではないだろうかと思っております。

今の段階で私なりに気になっておりますのは、「平等原理の全面放棄」というべき動きがあることです。新自由主義との関わりでいえば、所得の第一次分配は尊重するが、その第一次分配を再分配で修正するというこのところは重要なものではない。できれば放棄してしまいたいというのが新自由主義の、この面からみた特徴なんだろうと思っております。したがって結果としては、平等はどこかへ飛び、わずかにいえるのは自由のお互いに倒しっこをする競争だということになってきている。私どもの社会福祉にずいぶん関わってくるのではないかと。これが第二点です。

第三点は、憲法というものを権力に対する制約ではなくて、国民の義務条項として、憲法をつくり直す。国民を義務でしばりあげる、そういうものに変えて行こうというのが改憲構想だろうと思っております。

京都市民医連中央病院
健康友の会での講演
1999年

